

放送大学 北海道同窓会会報

第 25 号

発行 放送大学北海道同窓会
発行責任者 中根 恵美子
編集 広報担当
発行日 2014 年 12 月 1 日(月)
URL: <http://hhdoso.sakura.ne.jp>

会員数 208 名(2014 年 9 月 29 日現在)

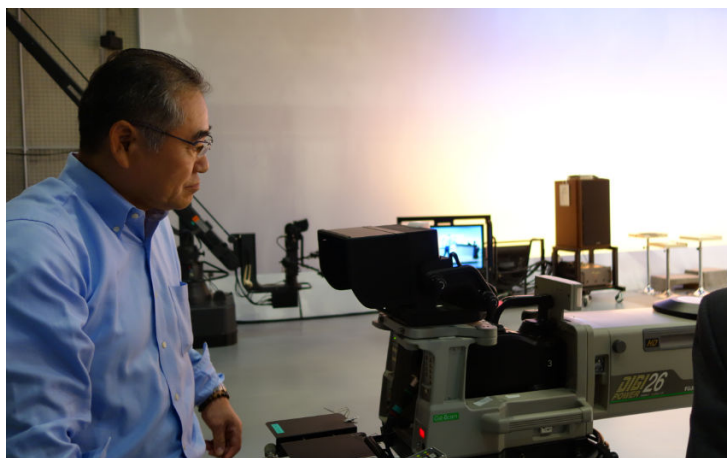
「第 3 回関東甲信越地区同窓会交流会と連合会役員会に参加して」

放送大学北海道同窓会 会長 中根 恵美子



10 月 17 日 18 日の両日千葉学習センターと幕張国際研修センターで行われ、初日は第 3 回関東甲信越地区同窓会交流会と翌日は連合会の役員会に参加しましたので会員の皆様に報告させていただきます。地区同窓会交流会は全国ブロックで行われ、昨年北海道学習センターでも開催しました。今回の幹事同窓会は千葉同窓会で、山岸会長以下役員の方々の献身的な運営に感謝しております。当日参加者は 21

名で連合会本部、北海道、茨城、栃木、群馬、埼玉、東京文京、東京多摩、神奈川、新潟、山梨、長野、石川、静岡、京都、広島、の各同窓会と OB が群馬 2 名、千葉 1 名、オブザーバーとして茨城同窓会から 1 名でした。地区同窓会交流会は放送大学学歌斉唱の後、矢野会長代行の挨拶から始まりました。次に大学本部施設の見学で、TV スタジオと演奏所を見学後、付



属図書館を見学しました。私たちが毎日見ている放送番組を制作している TV スタジオをわくわくしながら真近に見せて頂き、担当者から説明を受けました。来期のセットも見せて頂きました。次に場所を変えて演奏所を見学に行きました。建物の名称から楽器を演奏するところと思いきや、モニターがたくさん並び防音の室内で映像や放送時間などを確認、操作するところで、担当者



はどの方もジーと画面を見えています。目が悪くならないのか質問したら、たくさんの画面がそれぞれ動くので目の体操になるとの事。また、写真撮影は禁止(モニター画面の著作権侵害になるので)との事で皆様にお知らせできませんが、TVドラマで見たことがある内部と同様でした。

興奮冷めやらぬところで次に付属図書館を見学。自動収納書庫や、放送終了となった教科書やDVDなどのすべてが貸出し可能との事。り、卒業生が贈呈した本も展示していました。広い勉強スペースがたくさんあり、蔵書も2万冊以上とのことで個室も予約が必要ですが、空いていれば使えるとの事。恵まれた環境で勉強できますね。



翌18日は連合会役員会が行われました。主な議題は25年度助成金報告、近畿地区交流会の実施について、公孫樹45号の発行について、25周年記念事業の立案などが話し合われ、また、某同窓会監査役が大学本部に提出した書簡についての質疑がありました。同窓会運営ばかりではなく団体の長になりたい人間の欲が学問する場にも深くかわり、適正な運営を阻むことは残念でなりません。連合会ではこのような会合や同窓会代表交流会、地区交流会で各地の同窓会と情報交換をし、お互い相談し合い、解決方法を探したり、胸襟を開いて話し合うことにより、同窓会同志の深い絆作りを支援しています。

同窓会は、学生と母校の支援をするのだと口癖の様に言って参りましたが、その同窓会を支援しているのが同窓会連合会であり、またその同窓会連合会を支援しているのが大学本部で学長、副学長をはじめ学生支援室の方々であります。同窓会もまた母校と学生の力を得て、より活発に活動できるのだと改めて思っています。

今後も北海道同窓会会員の皆様のお力を得ながら北海道学習センターの学生・学生サークルの活動の後ろ盾になりながら母校の支援励んでまいります。

会員の皆様!! あなたの手を少し伸ばして互いの手を結んでさらに飛躍しましょう!!



*文中の写真は石川同窓会会長横山 亨氏提供

第 10 回放送大学研究発表会開催

8 月 9 日(土)北海道学習センター 6F 大講義室を会場で開かれ 100 数名の聴衆が詰めかけました。

1. 記念講演

講師：北海道立総合研究機構理事長(元北海道大学総長・元放送大学長)
丹保 憲仁



近代の終わるとき

—100 億人地球に生—

講演の概要は「産業革命に始まる近代の 300 年は終焉を迎えようとしています。人口 100 億人がおそらく近代の人類の異常増殖のピークであろうと思います。化石原子力エネルギーがなくなる 22 世紀初頭では、再生可能エネルギーと地球の水循環フラックスで維持できる食料生産と生態系保全のシステムを作り上げていかなければならないでしょう。」

人口も 60 億人ぐらいに減らさなければならぬように思います。成長と進歩を単純に追い求めた近代の次の時代、22 世紀に本格的に始まるであろう Post Modern 時代は、今と全く異なる人類の時代になると思います。」でした。講演内容が深く時間が足りなくなり、質問時間も無くなり、「持田実行委員長が質問したかったのに」と残念がっていた。周囲からも、また、アンケートでも丹保先生の講演もう一度聞きたいとの要望があった。丹保先生はご自分の講演後も残って修了生の論文発表を聴き、コメンテーターとしても指導して下さい、聴講者にとって、先生の教育に熱心な人柄に触れられ至福の時間であった。また、帰り際に縁故のある加藤栄さんとツーショットを取られセンターを後にされた。



2 放送大学研究発表

発表 1 テーマ「十勝地方における最適なジャガイモ栽培法
とは — カルシウムを用いた栽培事例の一考察 —」

放送大学大学院修士 文化科学研究科自然環境科学
プログラム 高木 紀明 氏

発表の概要は「1598(慶長 3)年にオランダ人によって持ち込まれたとされるジャガイモは、害に強い救荒作物として飢饉から多くの人々を救ってきた。しかし、わが国におけるジャガイモの生産量は、2,800 千トン(2008 年ベ-





ス)と世界の生産量の 1%にも満たない。主食である米と比較し、エネルギー変換効率約 2 倍を誇るジャガイモは、今後起こり得る食糧危機に対しても私たちの生命を救う可能性があり、持続的な品種改良そして栽培技術の向上を図る必要がある。この研究では、十勝地方に最も適したジャガイモ栽培法を、『堆肥』、『リン酸』および『カルシウム』の 3 つのキーワードを軸に考察した。」高木さんの発表後、丹保先生、富田前センタ

ー所長、筑和センター所長からの質疑応答で額を拭きながら指導をうけて、今回一番ラッキーな発表者になったと思います。



発表 2 テーマ「フィリピン・ダバオ州における反日感情と残留日本人二世」

放送大学 教養学部 学士 生活と福祉コース 小西 淳子 氏

発表概要は「戦前、日本人移民はミンダナオ島ダバオに 20,000 人が住んでいた。彼らは未



開の地を開拓し、マニラ麻を一大産業に育て上げた一方で、日本人社会を築き上げ、国際結婚により混血児を多くかかえる社会だった。アジア太平洋戦争開戦直前になっても日本に引き揚げずに残留し戦争協力をした。

終戦後はアメリカにより日本に強制送還され、フィリピン人妻と日系二世が現地に残された。激しい反日感情が出現したため、二世は身元が分からなくなり無国籍となった。

今回の発表ではアジア太平洋戦争に焦点を当て、開戦直前になぜ引き揚げなかったのか、二世が身元不明となった激しい反日感情がなぜ起きたのかを明らかにしていきたい。」との事でありました。

発表 3 テーマ:「映像制作における 3DCG クリエイターの人事管理

～SECI プロセスを用いた考察～

放送大学 教養学部 学士 社会と産業コース 野澤 久美子 氏

発表の概要は「日々進化を遂げる 3DCG 映像技術。これらを駆使して制作された映像はテレビドラマや映画、各種ゲーム内など、コンテンツの一部として組み込まれ、リリースされることで消費者の目に触れることになる。その美麗で非現実的な映像に消費者は釘づけになり、魅了される。では、このような映像制作に携わる 3DCG クリエイターは、一体どのような経緯で業界に入り、今日まで技術を磨き続けて来ているのだろうか。今回はモデルケースとして取り上げた企業内におけるクリエイターの配置、育成、作業環境、そして制作進行上発生する諸問題に関して、人事管理の視点で分析を行い、特に SECI プロセス（形式知・暗黙知）を用いての考察」でコメンテーターの北海道大学准教授内田純一先生の指導内容などを分かり易く解説して下さい、会場もより理解が深まったと思います。



(左から野澤氏、小西氏、丹保先生、高木氏)

大事な引用しない文献

第10回放送大学研究発表会実行委員会 実行委員長 持田 大



この研究発表会は、第10回目を迎えます。一つの節目を迎える今回の実行委員長に選出していただいたことをありがたく感じております。私は、第7回研究発表会で修了者として発表させていただきました。その時、実行委員の方々や関係する方々の熱意とご尽力によって、この研究発表会が成り立ち、続いているものと感じました。また、修了した者として、このような機会を与えてくださったこと

に感謝しております。私は今後もこの研究発表会が、永続的に継続されることを切に願います。

さて、皆さんは研究テーマをどのように決めますか。関心のあるもの、社会もしくは身近で問題となっていることなど、様々な物事を対象として、研究テーマを絞り込むのではないのでしょうか。

私の場合はある時、珪藻（藻類の一つ）という生物を知ることになりました。水のあふ所ならどこにでもいる生物です。肉眼では見えないミクロの生物ですが、顕微鏡写真を見て、珪藻の持つガラス質の紋様の美しさ、不思議さに関心が高くなりました。そして、調べていくうちに、環境指標生物であるということもわかりました。さらに、北海道で生育する珪藻を調べていくと、大きな湖での研究報告はあるものの私の住む札幌の河川についての事例はほとんどありませんでした。そこで、自分で調べてみよう、札幌市を流れる河川の珪藻の生物相を明らかにすることを研究テーマの一つにしました。調査方法や結果のまとめ方については、多くの先行研究を参考しました。一つ労力がかかったことは、調査地を設定することでした。札幌の河川の水の流れには、からくりがあります。合流する川、分流する川、切り離された川があり、水のフローがわかりにくいのです。さらに、取水場、下水処理場の位置などを考慮しながら、幾つかの書籍を参考にし、調査地を設定しました。

調査地を設定する際に、参考にした一つの書籍は「さっぽろ文庫 24 札幌と水」です。多くの箇所勉強になりました。私の修士論文で引用文献には入れていませんが、大事な本です。この書籍の一編を、今回記念講演をしていただく前放送大学長の丹保憲仁が書いておられます。私としては、丹保先生のお話が聞けることは何かの縁ではないかとうれしく思っています。また、研究発表をしていただく3名の方々も、研究分野が様々で興味深い内容のものにしています。皆さん、積極的に質問しましょう。そして、議論しましょう。この会を継続させていくために必要なアクションだと思います。

第2回

放送大学東北・北海道ブロック交流会 開催される

9月6日 第1部 13時00分～17時00分 第2部 18時00分～20時00分

9月7日 9時45分～12時00分

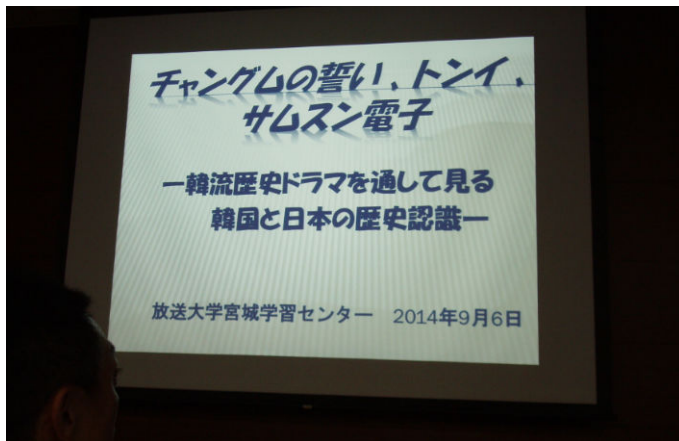
実施場所 9月6日東北大学片平キャンパス さくらホール他

9月7日放送大学宮城学習センター

9月6日 東北大学片平キャンパスさくらホールにて第一部が開催された。

- ・ はじめに、佐々木宮城の会会長から開会の挨拶があり、続いて、原センター長、同窓会連合会矢野会長代行からそれぞれ挨拶があった。参加者は同窓会連合会本部4名、北海道同窓会4名、青森同窓会4名、秋田同窓会1名、山形同窓会3名、幹事同窓会の宮城野会は9名と一般参加者を入れ100名を超える盛況であった。

- ・ 次に、放送大学附属図書館長 吉田光男教授より 記念講演「チャングム、トンイ、サムスン電子 ―韓流歴史ドラマを通してみる韓国と日本の歴史認識―」があった。日本と韓国の関係がギクシャクしている今だからこそ、韓国の歴史文化を身近な「チャングム」や「トンイ」といったドラマ、また、相互の観光客数などから学び、韓国人の「日本」に対する認



識と「日本人」に対する認識は違うもので、「日本」は国として嫌いだが、「日本人」は嫌いではないという考え方を知ることができた。

- ・ 休憩を挟んで、3題の卒業研究発表があった。
- ・ 発表1番目は、同窓会役員でもある安喰由幸さんの「狩猟文化(マタギ)と山の神信仰について」の発表であった。実際に現地に出向いて、山の神について調べたもので、指導教授も大変な思いをして現地で写真を撮らせてもらったなどのエピソード紹介があった。
- ・ 発表2番目は、傍島智子さんの「看護学生のアイデンティティと主体性の関連」についてで、これは看護学生の「意識」についてアンケート調査を行い、その結果を量的調査の手法を用いて分析・検定したものであった。
- ・ 発表3番目は、森俊英さんの「義務教育学校の統廃合の変遷に関する歴史的研究～石巻市雄勝地区の事例を通して～」であった。これは、地域の地理的条件(道路整備)などと人口の変遷などを調べ、このことと小中学校の統廃合が地域的なつながり





から出来上がった学校なのか、あるいは、地域的つながりを考慮せずに行政側の都合で学区割りを定めたものなのかといった発表であった。

- ・ ここで、「参加者との懇談」の時間が設けられた。各発表者が熱心なあまり時間がおいていたが、この時間にも熱心に質問をしている姿が見られ、大変活況のうちに終了時刻となった。

○ 9月6日 第2部



- ・ 会場をアークホテルに移し、記念講演をしてくださった吉田先生をはじめ、発表者とその講評をしてくださった先生、宮城の会や他の同窓会メンバーなど、第1部に出席したメンバーの多くが参加しての懇親会を行った。指名されたメンバーから挨拶があり、中でも宮城野会会長は琴と長唄、青森からの出席者は手品を披露していた。

○ 9月7日

- ・ 翌朝、放送大学宮城学習センターにおいて交流会が実施された。



- ・ 同窓会連合会矢野会長代行より、助成金についての説明があった。申請する際の様式や記入上の注意などを確認した。
- ・ 各同窓会から活動報告があり、長崎同窓会、秋田同窓会、宮城同窓会、山形同窓会、青森同窓会及び北海道同窓会からそれぞれ発表した。青森同窓会から発表された「おしえて先輩！！」など興味深い活動報告があった。
- ・ 次回開催場所は青森同窓会に決定した。

選定の理由として、秋田同窓会は、再来年が学習センターの20周年に当たるのでそのときにあわせて交流会を実施したいとのことだったので、再来年の開催場所とした。

山形同窓会は、次回幹事同窓会を決める議題で会員60名足らずで、地域が分散しており、実際に講演会をした際にも同窓会役員の8名程度しか出席しない。また、現会長が会報や会運営のすべてをしていたので、他の役員はお客さん状態であることから同窓会交流会の幹事は難しいと発言していた。しかし、連合会須藤理事から「そのような事情であれば、同窓会の交流会としてのみの開催でもいいんじゃないか」との発言があったことで、会議の終盤では「幹事ができるよう前向きに検討します」と決意を述べていた。

青森同窓会も当初学習センター側の人事異動などの関係から開催に難色を示していたが、連合会からこれまでのように大々的な開催でなく、小規模での開催でもいいので実施してもらいたいこと、また、同窓会役員が会うにも多額の交通費が掛かるので辞退したいとのことであったが、「交通費は10万円の助成金とは別枠で支払います。」と連合会矢野副会長から返答があったこと、それに加え、北海道中根会長からの強い要請もあり、次回開催場所とする運びとなった。

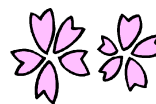
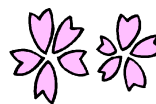
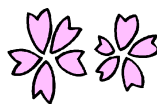
- ・ また、全国で同窓会が設立されていない学習センターとして「岩手」と「福島」があり、「福島」はまもなく設立できそうな状態になっているが、「岩手」が難しいことになっていることに対して、青森同窓会に人的なつながりがあるそうなので、そのことも交流会で全ての同窓会が集う場とできることが期待されることとなった。

○ その他 北海道学習センターと宮城学習センターの違いとして、宮城学習センターでは学生控室に、パソコンサークルの作品展が掲示してありサークル活動がよくわかるようになっていた。また、新聞各紙を1週間分を棚にして保管し、いつでも一週間前までの新聞を閲覧できるようにしてあった。できれば、北海道学習センターにも取り入れたい。

12 時来年の第3回にまた会う約束をして第2回放送大学同窓会東北北海道ブロック交流会は幕を閉じた。青空のもと宮城学習センター入り口で記念撮影をしました。



9月28日平成26年前期の学位



記授与式がありました。

放送大学北海道学習センター(出席者 35 名)で執り行われました。苦難を乗り越えてはれて卒業証書を手にされた方、本当におめでとうございます。今学期の北海道学習センターから 78 名の学士と 1 名の修士・旭川サテライトスペース 9 名の新学士が誕生致しました。(「てんとう虫」第 97 号参考) また、97 才でご卒業となりました同窓会終身会員の加藤栄さんは所長特別賞を受賞されました。



卒 業 を 祝 う 会 の 様 子



学生サークルうたの会から歌のプレゼント

卒業を祝う会 9月28日(日) 学位授与式の後、同窓会主催による「卒業を祝う会」が、15時30分から行われました。各テーブルには、紅白の饅頭と、お赤飯でお祝いして、オープニングは、「うたの会」サークルの「放送大学歌」、「道・放大生賛歌」「喜びの歌」で始まり、主催者の中根同窓会長が挨拶、筑和北海道学習センター所長・土橋事務長の来賓挨拶があり、卒業生代表から北海道学習センターに図書寄贈目録が筑和所長に贈呈され、筑和所長がお茶で乾杯の音頭で「いわう会」が始まった。





卒業生代表加藤栄さんから筑和
センター所長へ記念品贈呈

卒業生からの「ひとこと」

《人間と文化専攻》

札幌市南区 加藤 栄

働くことを終えて、82才のとき、冷やかし半分で放送大学の門を叩いてから15年(97才)で、2度目の卒業をすることができた。尋常小学校卒業の無冠が、95才で学士さまになった前回に比べると、あの時程の感激は無いが、それでも、又一个の山を越えたという達成感はある。

諸先輩には、すべてのコースを終えて、“名誉学生”の称号を得た方々が居る中に2コース卒業などはヒョッコに過ぎない。ただスタートが遅かったので、年令だけは、いっているの、“大学の窓”で高齢者として紹介されている手前、今更“もう止めた”と逃げ出す訳にもいかず、又々再入学して、生活習慣病のように、これからも大学との付き合いは続けるつもりである。

3月の卒業式には“白寿卒業生”として出席するつもりである。

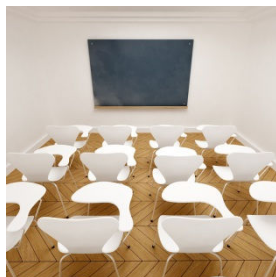


私は数十年前に4年生の夜間大学を卒業しました。放送大学は面接授業もあり、学習センターに行くとサークルもあり仲間もいて、しかも毎年の研修旅行に参加していると、希望していた昼間の大学と同様の気分となり充実した日々を送ることができました。

勉強においては、自分で選択した教科ですから、単に単位を取得し、卒業を目指すのではなく、教科書を吸収し少しでも子供や孫に話ができることを目標に進めました。子供や孫が遊びに来て、机に向かい勉強している姿を見せてきたようにも思います。何処か出かける時も教科書を手に、少しでも時間を見つけ読んでいました。

此の度の放送大学卒業は、自分に挑戦し勝ち取った人生へのプレゼントであり、大きなものが完結したような気がしております。

次は修士に進み、その後、再度大学に戻り面接授業を受けたり、生涯楽しく在学していきたいと思っております。



今回2回目の卒業です。きっかけは、大学という所で学んでみたかった。いろいろな事情で(大学に)行く事ができなかった私にも放送大学を知り“チャンスが来た!”と思った。学ぶほど、まだまだ未知のことばかりで、仕事のためとかではなく、学ぶことが生きがいになった。 学びの中に人に優しく、包容力のある人間になる気がしている。

面接授業では、広大な北大キャンパスのイチョウ並木が季節ごとに

色を変え、歩きながら“自己満足”“気分爽快”。授業では幅広い年齢層の中で共に学ぶことが出来る“喜び”。立派な先生の方々の質の高い講義を受け毎回“感動”。片道車で5時間かかる帰り道では“満足感”でいっぱいになる。

自分のペースにあわせて、楽しみながら前進していこうと思っている。



第6回

文化祭開催される

平成25年10月7日(火)から10月12日(日)まで放送大学北海道学習センター5・6階で開催されました。

今回も、同窓会・学友会・学習センターで実行委員会を立ち上げ、実行委員長に杉山東樹(学友会会長)が選ばれ、委員長を中心に数回の委員会を開催し、準備をし、開催しました。

展示部門は、10月7日(火)から10月12日(日)まで6階ロビーで開催し、絵画・写真・ゴールドワーク・ブローチ、クッション等が展示され、皆さんの目を楽しませてくれました。



バザー

会場～5階 ロビー

皆様から沢山のバザー用品を提出して頂き、ありがとうございました。

収益金は、**13568円**になりました。収益金は、実行委員会で協議し、積立金とさせていただきます。



講演会・学芸会



杉山実行委員長と筑和センター所長の挨拶の後、放送大学客員教授恒川昌美先生

の講演「笑いで育む人間力」の後、北大落研の落語と続き、サークル発表は英語サークル・源氏の会、うたの会と続き学芸会は朗読は中川さん、手品、ギター演奏で幕を閉じました。



サークル紹介

健康サークル

5月6日に初めて『軽川散策』参加して

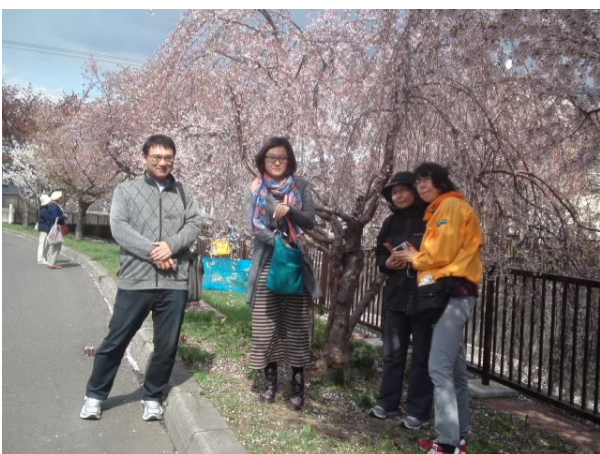
中山 一喜

私は今年4月、放送大学に編入学しました。通信教育の性質から、どうしても学生間の繋がりや関係性は弱いものだと勝手に考えていました。しかし初めてセンターに行って掲示板を見ていると、様々なサークルの案内が掲示されていて、活動は活発になされているのだと感じました。そこで数ある中からアクティブな印象を受けた『Health Circle』への加入を決めました。いろいろとお出掛けして、普段出会わないであろう様々な年代の方とのコミュニケーションができそうと思ったからです。

その後、5月6日に初めて『軽川散策』に参加しました。手稲駅前集合して、そこから散策がスタートしました。もちろん、初めて出会った方々ですから、最初は楽しい気持ちよりも、緊張感の方が勝っていたと思います。間もなく軽川に近づいた時には、桜がまさに満開といった様子で迎えているという感じがしました。ソメイヨシノやチシマザクラが沢山の花を咲かせており、感動しながらカメラのシャッターを何度も押していました。川の上にはけられた鯉のぼりも良いアクセントになっていました。その後、桜を見つつお茶等を頂きながら、徐々にコミュニケーションが取れて、緊張感がほぐれていきました。

昼食は焼肉バイキングで、更に飲み食べながらお話も弾み、心もお腹也大満足になっていました。

以上、撮りためた写真を見ながら、思い出を振り返ってみました。早いものでこれから半年が過ぎました。春と夏はとうに過ぎ、今は秋から冬になりつつある様子です。そして更に半年が経つと、再び桜の季節を迎えます(極めて当然のことですが・・・)。来年も是非、軽川の桜を見に行くことを楽しみに待ちたいと思います。



10月12～13日(日・月)「ひらふ・ニセコ散策」に参加して

土肥賢一

10月12日13日とヘルスサークルの「ひらふ・ニセコ散策」に参加しました。参加者7名で、初日神仙沼散策、二日目アンヌプリ登山という日程。初日、神仙沼の入り口で昼食を取り、ゆっくりした足取りで湖畔へ向かいました。快晴に恵まれ、神仙沼の景色も最高で、気持ちよく散策出来ました。夜は温泉に入ったあと自炊。リーダーの指示の下、各自食事の準備をし、ジンギスカンを囲みながら楽しく歓談して過ごしました。

翌朝朝食を作りながら、登山について話し、雨は降らないようなので登山決行。登山者は4名で、内2名は登山経験者、1名は「ニセコは私の庭」って言っている人、残り

の1人は三角山や円山くらいしか登らない私。参加しない3名はニセコ散策と分かれて行動しました。登山組は、登山経験者を前後にゆっくり休み休み登ったのですが、2時間かからずアンヌプリ山頂に到着。あいにくの曇り空ながら、麓の様子が一望できて満足満足。登山しない組もゴンドラに乗って景色を楽しんだり、温泉に入ったりして楽しんだようです。こんな感じで気楽にやっているのがヘルスサークル。今回は一泊二日の旅行でしたが、1日の企画が多いので、みなさんも気軽に参加してみませんか？

1日目 神仙沼散策



2日目
アンヌプリ
(1308,5m)
登山



Health Circle 活動より

6月27日(金) イチゴ狩り

お天気もよい日でした。
大橋さんのプライベートの畑におじゃましました。

初めてのサークル活動、しかも、初めてのイチゴ狩り体験だったので、ちょっと心配でしたが、楽しく参加できました。

採りたてイチゴは温かかったです。温かいイチゴを食べるのも初めてだったのですが、その場でペットボトルからの水でちゃちゃっと洗って食べるという、ワイルドな感じも楽しかったです。
お土産に沢山葉っぱの付いた大根も持たせていただきました。
家に着いてから、大根の葉のおひたしを作ったり、大根の煮物も作ったりと、帰ってからも楽しみました。

帰り道、石狩湾の方を、くるっと、案内してもらって、ドライブも楽しめました。
大橋さんのガイドは、とても感激しました。（とても詳しくて、さすが、地元の人だと思いました。

西田 妙子



面接授業『光で探るミクロの世界』を受講して

大橋ちよ子

今回、安池智一先生の11月1~2日面接授業『光で探るミクロの世界』を受講しました。この授業は、「自然と環境コース」の一教科として受講しましたが、この教科の基礎的知識や前勉強の授業などを履修していない状態で受講しました。

最初は、「光の屈折とレンズ」「ガリレオの地動説の傍証」などで、昔、高校生に学んだ記憶を辿りながら、何とか理解することが出来ました。

次第に、授業が進みましたが、「ニュートンの分光実験」など楽しくウキウキした気分で講義を聴いておりました。しかし、その後の「ホイエンスの原理」の辺りから、先生の説明と図とを照らし合わせ、一致させることで四苦八苦し始めました。「波を表す式」「スペクトルと物質」のところになると、もう、お手上げでした。そこに書いてある英語の文字??を読むことも出来ず、耳を澄ませても、初めて聞く言葉で、聞き取れなくなりました。ただ、言葉が通り抜けていく状態でした。微分積分方程式、関数、const、そして、定在波のシュレーディンガー方程式.....ete、etc. もう、全く理解できない状態でした。



でも、この講義は、毎日の生活の中で一番身近な科学、光と色など考えると何とか生活の中で考えて見たいと、気持ちが奮い立たせて、ノートに書き留めておき、後で調べていこうと切り替えました。後で読んでみても何のことを書いているのか解らない言葉が沢山ありました。掲載の写真は、ドキドキしながら、実際に体験させていただいた様

子の写真です。また、質問タイムには、「虹のメカニズム」「夕焼けのメカニズム」などすると、当日の回答の他に、翌日の講義に、更に詳しく調べてくださった回答をしてくださいました。「簡易分光器」の工作とスペクトル実験では、室内がまるで小学校の授業を受けているような雰囲気、高揚した声々で楽しい時間が流れ、印象深く残る面接授業になりました。

この講義は、やはり、基礎的知識が必要と思いました。次回の講義の時には、少しでも理解できるように、基礎知識を積み上げて受講したいと思っております。先生から紹介された江沢洋著「現代物理学“93」放送大学、線形代数、微分積分方程式、関数などを学習し、次回の講義の履修を楽しみにしております。千葉放送大学本部の本部図書館で、吉岡一男著「天体物理学入門‘03」放送大学を借りてきたところです。

北海道同窓会 次期役員 募集中

北海道同窓会では平成 27 年度・28 年度の役員を募集しています。

期限は平成 27 年 3 月 15 日までです。

役員の業務は定期総会の準備、定期総会運営、会報の編集、会報発送作業、卒業を祝う会の準備・開催、ひとこと集の編集、ひとこと集の発送作業、定期総会の準備、定期総会運営、研究発表会の実行委員、文化祭実行委員などですが、どれか一つでもお手伝い下されば非常にありがたいです。また遠隔地在住の方は会報に記事を送って下さったり、メールで会議に参加し同窓会活動にご意見を反映させることもできます。皆様、お手伝い下さい。宜しくお願いします。

卒業記念図書贈呈

同窓会長一任となっている卒業記念品は筑和センター所長が選考した下記 7 冊を平成 26 年 11 月に贈呈しました。

- ・ 情報検索の基礎知識 新訂 2 版
- ・ 論文・レポート作成に使う Word2013 活用法
- ・ 新パートナーシップの家族社会学
- ・ 日本人の心を解く
- ・ 社会的接点としてのアートマネジメント
- ・ 世界から猫が消えたなら
- ・ 色彩を持たない田崎つくると、彼の巡礼の年

5 階図書室に保管されています。是非ご覧ください。

会費納入と新入会員募集のお知らせ

2014 年度の継続会員の方は、今年度の年会費 **1,000 円** を下記口座へお振り込みくださるようご協力をお願いします。

また、同窓生の中で同窓会に入会していない方がおられましたら、入会をおすすめくださるようお願いいたします。

入会を希望される方は、郵便振替用紙に「氏名、住所、電話番号、卒業年月、専攻」をご記入の上、入会金 **1,000 円**、年会費（初年度）**1,000 円** を下記口座へご送金ください。（次年度以降は年会費のみとなります。）また、**70 歳以上**の方は、**1 万円**で**終身会員**となります。

ゆうちょ口座名 放送大学北海道同窓会
口座番号 02740-0-37725

放送大学を宣伝してください！

皆さんの『口コミ』で、放送大学に入学して良かったと思うことを、大勢の方々に知らせてください。

入学等に関する問合せ先

放送大学北海道学習センター
TEL 011-736-6318

「会員の声・読者の声」募集中！

現在、会員や読者の皆さんの声を募集しております。皆さんの近況や会報へのご感想、ご意見がございましたら、是非、お寄せください。

（宛先） 〒060-0817

札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学構内
放送大学北海道学習センター気付
放送大学北海道同窓会
学習センター事務室内ポストに直接投函可
FAX・Tel 兼用：011-642-2389 中根

新入会員のご紹介！！（敬称略・順不同）

2014 年9月卒業生

（自）湊 博喜	（心）工藤光子
（社）竹田 礼子	（生）宗前 茂雄
（人）田中 みどり	（社）木下 祥子
（生）篠田 智美	

（2014 年 9 月 28 日現在） 以上 7 名
〒・住所・電話番号などの変更のときは、必ず、ご連絡をお願いいたします。

編集後記

地球温暖化のせいか今年の夏は全国が異常気象に見舞われ、各地で水害や土砂崩れが多発しました。日本列島の表層は火山灰でできており、どこで土砂崩れが起きても不思議ではないとのこと。被災された方々にお見舞い申し上げます。生まれて初めて経験する集中豪雨、雷や稲光で札幌も 2 万人以上に避難命令が出ました。全国では自然災害にもめげずに勉強している仲間がいます。放送大学生は素晴らしい！

97 才の卒業生加藤栄さんは再入学しました 3 コース目です。ご本人いわく「放送大学の勉強は生活習慣病のようなもの。毎日付き合っています」との事。97 才の向学心には頭が下がります。そして勇気と力を貰っています。加藤さんのようなお手本がいて北海道学習センターの学生は幸せ者ですね。

あっという間に北大の銀杏並木も黄色の葉が雪まみれの絨毯になってしまいました。観光客も銀杏拾いの市民もめっきり少なくなりました。今年は冬が早いですね。通信指導の提出が終わったと思ったらもう師走ですね。短いお正月が終わると単位認定試験です。この頃、時間を止めたくするのは私だけでしょうか。

広報担当